

令和6年度第2回横浜市保健医療協議会会議録	
日 時	令和7年2月17日（月）19時00分～20時05分
開催場所	横浜市役所18階みなと1・2・3会議室／オンライン併用開催
出席者	赤瀬智子委員、石川ベンジャミン光一委員、田原恵委員、伏見清秀委員、宮城悦子委員、石内亮委員、齊藤悦子委員、佐伯隆史委員、坂本悟委員、白水秀毅委員、辻村陽子委員、戸塚武和委員、中村雅一委員、松井住仁委員、溝呂木啓之委員、吉田直人委員
欠席者	八亀忠勝委員
開催形態	一部非公開（傍聴者0人）
議 題	<p>議 題</p> <p>（1）令和6年度病床整備事前協議について 【資料1】</p> <p>報 告</p> <p>（1）配分済み病床の整備進捗状況について 【資料2】</p> <p>（2）令和7年度医療局予算について 【資料3】</p> <p>（3）令和7年度健康福祉局予算について 【資料4】</p>
決定事項	<p>1 議題（1）について、非公開とする。</p> <p>2 令和6年度病床整備事前協議については、病床整備検討部会で検討・作成した配分案を本協議会の配分案として、市長に報告することとした。</p>
議 事	<p>1 開会（オンライン開催、定足数、傍聴人の報告、議事録の作成、局長あいさつ）</p> <p>（事務局高橋医療政策部長）本日の議題（1）令和6年度病床整備事前協議に関しましては、個々の医療機関から提出された情報に法人または個人の事業計画等が含まれており、参考資料2の横浜市の保有する情報の公開に関する条例第7条第2項第3号のア及び第5号の非開示情報に該当します。この非開示情報に該当する事項を審議する場合は、同条例第31条ただし書第2号に該当します。したがって、参考資料1の当協議会の運営要綱第8条のただし書により、議題（1）につきましても、委員の皆様の承諾を得た上で非公開とすることを事務局として提案いたします。</p> <p>（伏見会長）ただいま事務局から議題（1）令和6年度病床整備事前協議については非公開にしたいとのご提案がありましたが、ご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。特に異議はありませんでしょうか。</p> <p>（委員）[異議なし]</p> <p>（伏見会長）それでは、議題（1）につきましても非公開といたします。</p> <p>2 議題</p> <p>（1）令和6年度病床整備事前協議について [非公開]</p>

3 報告

(1) 配分済み病床の整備進捗状況について【資料2】

(事務局山本地域医療課長) [報告(1)について説明]

(伏見会長) それでは、ご質問・ご意見等ある方、よろしくお願ひいたします。

(委員) [意見なし]

(2) 令和7年度医療局予算案について【資料3】

(事務局佐藤総務課長) [報告(2)について説明]

(伏見会長) ただいまのご説明についてご質問・ご意見等ありましたらご発言をよろしくお願ひいたします。

(戸塚副会長) 横浜市医師会の戸塚でございます。この予算について、先日も横浜市医師会に来ていただいてご説明を受けました。医療・介護・保健分野において本当に過不足なく、バランスよく予算を立てていただいて、本当にありがとうございます。特にがん検診でHPV検診、これは日本で初めての検診でございます。みんな注目しておりますので失敗できないと思いますし、横浜市医師会としては最大限の努力をしてご協力させていただきたいと思ひます。

それから、横浜市医師会は昨年、いろいろな要望をお願いしましたがけれども、多くの要望をかなえていただいて本当にありがたいと思ひています。特に医療人材確保の育成事業、高齢者の低所得者の補聴器購入の補助とか、最大のものは、これは毎年お願いしてやっとな実現したのですが、帯状疱疹ウイルスワクチンの高齢者の補助でございますね。本当に喜んでおります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。意見というか感想でございました。ありがとうございました。

(伏見会長) どうもありがとうございました。

(松井委員) いつも本当にどうもありがとうございます。実は全国の問題でもあって、特に都市部ですけれども、全国の病院の77%が赤字なんですね。診療報酬がほとんど上がっていないというのが基本的にそうなんですけれども、そういう状況を踏まえていただいて、また横浜市にいろいろ考えていただけたらと思ひます。皆様には本当に病院が苦しいということをお分りいただきたいと思ひます。物価も上がっているし人件費も上がっているけれども、診療報酬は上がっていないんですね。なので、その辺をできたらよろしくという要望です。

(伏見会長) ありがとうございます。事務局、何かありますでしょうか。

(事務局原田局長) 病院の経営のことでございますが、実は今ご説明申し上げたのは7年度の予算ということでございますけれども、今年度の補正予算でこの間の特に燃料費の高騰等に関して、国のほうからもでき得る限りの支援をとということで財源も頂いておりますので、それを基にしながら一定の配分を現在、議会で

ご審議いただいているところでございます。明日議決という状況になっております。

また、来年度以降については、先ほど松井委員から診療報酬が上がっていないというコメントがございましたけれども、診療報酬が実態としては非常に厳しい状況だということは、当然私どもとしても承知しておりますし、そのあたりの状況ですとか、あるいはそれを踏まえた意見交換等について、厚生労働省のほうとも綿密に行っていきたいと考えています。ただ一方で病院についても、これまでの経営スタイルから変えていかなければなかなか事態はうまい方向に行かないということも事実だろうと思っておりますので、そのあたり、今後の病院経営はどうあるべきかということについて、また病院協会の皆様方あるいは医師会の皆様方とも意見交換・調整をしていきたいと思っております。

それから、その前に戸塚副会長から予算について感想を述べていただきました。特に带状疱疹ワクチンにつきましては、医師会以外にも市民の皆様からも多くご要望を頂戴しておりまして、長年にわたって、これは市議員含めて厚生労働省に対し要望を行ってきております。その結果として来年度から国において定期接種化が認められたということで、予算についてもそれを反映したものでございます。

(伏見会長) どうもありがとうございました。

(石内委員) 質問なのですが、15ページの(3)在宅医療の充実のところ、冒頭、原田局長からも2040年、85歳以上の人口が急速に増加という話がありました。福祉業界としてもやはり2040年は、団塊世代ジュニアが全部65歳以上ということで節目の年になるという中で、その次の16ページのところに、これは糖尿病の連携のネットワークイメージ図ということで在宅医療の関係が書いてあるのですが、そのこの本人のところ、例えば認知症を患った高齢者や精神疾患のある高齢者、あるいは障害のある方みたいな、福祉的配慮が必要な方になった場合には、ここの連携の枠の中に、各区にある地域包括支援センターや区役所福祉保健課、あるいは居宅支援事業者や民生委員・児童委員、私ども社会福祉協議会などの福祉関係機関とか人が入ってくると思うのですが、医療局サイドとして、この在宅医療の充実の中で、福祉との連携という視点で課題と考えられていること、あるいは令和7年度予算に盛り込まれているものがあれば、教えていただけるとありがたいと思います。

(事務局大友地域医療部長) 今ご質問いただきました福祉分野との連携でございますが、具体的には15ページのアの在宅医療連携拠点、こちらは医師会にご協力いただきまして、介護と医療の連携の部分のご相談ですとか、様々な人材確保とネットワークづくりみたいなことを行っているところでございます。具体的な課題といいますと、やはりまだまだ連携が十分でないところもございますので、こちらについては引き続き健康福祉局等とも連携しながらネットワーク化、連携は

一層進めていきたいと考えているところでございます。

(伏見会長) ほかにご意見・ご質問等ある方、ご発言をお願いいたします。

(委員) [意見なし]

(3) 令和7年度健康福祉局予算案について【資料4】

(事務局松村企画課長) [報告(3)について説明]

(伏見会長) ただいまのご説明にご質問・ご意見等ある方はご発言をお願いいたします。

(中村委員) 私は健康づくりの推進を担当しております、保健活動推進員の中村です。少しお時間を頂きまして、令和6年度の活動並びに7年度の取組についてお話をさせていただきたいと思っております。

まず、令和6年度ですが、特定健診・がん検診の啓発活動ということで、令和4年度横浜市国民健康保険特定健診受診率は全体で26%だったのですが、令和5年度は28.1%と受診率がアップしております。啓発活動の取組内容は、各地区でのお祭りやショッピングセンターでの健康測定会、並びに特定健診受診キャンペーンのチラシを配布し、啓発活動を行っております。また、健康ウォーキング、ノルディックウォーキング、ボッチャという競技等を開催しております。特に最近では、中学校、小学校の子供たちと地域の方々が交流したいということで、ユニバーサルスポーツ体験ボッチャ競技を取り入れております。子供たちからチームワークがさらに増し、喜ばれております。また、保健活動の保活研修会というのがございまして、保健活動推進員全体研修会を毎年11月、関内ホールにて開催しております。内容は、3地区区役所の保健活動推進事例発表と講演会を開催いたしました。昨年の講演は、横浜市立大学医学部荒川裕貴先生の「地域で健康づくりを広げるために」でした。全体研修会は毎年実施しております。

続きまして令和7年度の取組です。スローガンは「地域の健康づくり」です。よこはま健康アクションの推進です。啓発活動としまして、特定健診受診キャンペーン、受動喫煙防止キャンペーンを実施していきます。昨年、横浜市保健活動推進員の魅力ある活動に向けたアンケートを、推進員全員約3700名から提出いただきました。推進員が活動を楽しんで取り組んでいただく工夫が大切と考えます。3月末までに専門委員からまとめ報告があります。内容を横浜市保健活動推進員会会長会議にて今後の活動に生かしたいと考えております。

(伏見会長) どうもありがとうございました。

(齊藤委員) 横浜市食生活等改善推進員協議会の齊藤と申します。先ほど説明がありました「市民の健康づくりの推進」における「よこはま健康アクション」等の推進の「将来を見据えた健康づくりの強化事業」について発言させていただきます。

横浜市食生活等改善推進員協議会では、今年度から始まった第3期健康横浜2

1に基づき、「健康を守る暮らしの備え」をテーマとした新しい活動を行っております。具体的には、「自然災害等の『もしも』の健康リスクに備える」ために、日頃から災害に備え、食料品等の備蓄に努める市民が増えるよう、活動を行っています。初めて18区全体で取り組む活動内容であったため、まずは自分たちが災害食についての研修を受け、しっかりと学習した後、区民の方たちに、食料品等の備蓄、ローリングストック、湯煎レシピや、火も水も使用しない簡単なレシピ等をつくり、啓発を行っています。次年度も引き続きこのテーマにしっかりと取り組み、第3期健康横浜21を推進していきたいと思っております。

(伏見会長) どうもありがとうございました。

(松井委員) 横浜市病院協会の松井です。3ページ目にありますけれども電気自動車の導入で、これは災害時の電源として活用が期待できると書いてあるのですが、今、電気自動車は、結局、電気をつくるために発電所がなくてはならないということで、それよりも直接そういう燃料を増やしたほうが良いという話もあって、電気自動車もあまり普及していないようです。電源としてならば、蓄電器をあちこちに置いたほうが良いのではないかと思うので、わざわざ電気自動車にする必要はないのではないかと思うのですが、いかがでしょう。

(事務局松村企画課長) 松井会長、ありがとうございます。確かに電気自動車だけでは不十分というところもありますが、まずは脱炭素の取組も含めてEV車の導入について今回打ち出していきたいと思っております。ただ、それだけでは必ずしも十分でない部分もありますので、1つ上にございます例えば非常用自家発電とか、今、松井委員からご紹介いただきましたポータブルの発電機、その辺についても幅広く検討して行って、いかに災害時に社会福祉施設が機能維持できるかという観点で考えていきたいと思っております。

(松井委員) 最近、電気自動車は脱炭素になっていないんだと。要するに、発電するのに一生懸命石油とか使っているわけで、なっていないんだという意見もあるので考えていただいて、電気自動車をどんどんつくっても、欧米なんかでもそんな一度に使えないとかいろいろなことがあるので、こちらにそんなお金があるんだったら発電機を買ったほうが早いのではないかと。

(事務局原田局長) 電気自動車についてはいろいろな議論があって、松井委員ご指摘のように、必ずしも電気自動車が脱炭素というか使用電力量の低減につながるのではないかということも、私もそういう議論があることは十分承知しております。一方で、千葉県で台風災害があり停電が大規模に発生した際に、大手の自動車会社さんが電気自動車を運んでいき、携帯電話などの充電をそこからしたというような事例もあるなど、当然、ポータブルの発電機でもいいんだと思うのですが、いろいろな電源を持つ、複数の電源機能を持つということについては、それはそれで意味があるのかなというふうにも思っております。特に車ですから、それを運転していけば電源が移動していくというような利点もあります。

もちろんそれだけでは完結しませんが、電源確保の一端としては使えるのではないかと。そのようにぜひご理解いただければと思います。

(松井委員) それは非常によく分かるのですが、車で行くより蓄電器をいっぱい持って行ってあちこちにどンドン置いたほうが僕はいいと思うのです。電気自動車が駄目だというので、欧米ではもうやめちゃっていますからね。だから、あまりこれを推進しなくてもいいかなと思うのですが。

(事務局原田局長) ポータブルの発電機なども当然考えられていると思いますが、電気自動車も普及の度合いによってもちろんどこまで導入できるかというのもあるでしょうし、そのあたりは日本の状況と世界の趨勢を見極めながら検討していきたいと思います。

(伏見会長) ありがとうございます。

(吉田委員) 9ページ目の歯科に関する部分ですが、歯周病健診の対象年齢が拡大して、新たに20歳・30歳の市民が対象になったということで、政府が骨太の方針に切れ目のない歯科健診の充実と、いわゆる国民皆歯科健診という表現もしていますけれども、それにのっとなって横浜市で次年度から実施されるということは非常に喜ばしいことだと思います。感謝申し上げます。しかしながら、歯周病健診自体の受診率が低迷しているということで、歯科医師会としても受診率向上に向けて取り組んでいるところでございますが、市当局のほうでも受診率向上のための対策をまた充実していただければありがたいと存じますので、よろしく願いいたします。

(伏見会長) どうもありがとうございます。

(戸塚副会長) 横浜市医師会の戸塚でございます。12ページの身寄りのない高齢者への支援ということで、これは大変重要な事業だと思います。身寄りのない高齢者がどんどん増えていって大きな問題になると思います。お金のある人はいいのかもしれませんが、お金のない身寄りのない方が亡くなると、最後まで行政としては面倒を見るというかお世話をするというところでございますが、火葬場の費用というのはどのくらいかかるのですか。東京都なんかは全部民間の業者が入っていて5万とか10万ということを知っていますけれども、今ちょっと全然関係ない話ですが、直美(ちよくび)というのが医療界で話題になっております。医師の偏在、診療科の偏在ということで、医師のトレーニングを十分受けないまま、研修医が終わった時点で美容整形業界に入って非常にトラブルが多い。そういうことが問題になっておりますけれども、葬儀の世界でも直葬(ちよくそう)とか直葬(じきそう)とか、そういう葬儀をしなくて直接火葬場に棺桶を持って行って葬儀をします。そういう葬儀が要らないという問題もありますし、葬儀は簡素化という傾向にありますけれども、葬儀費用というか、葬祭場の費用について、どのくらいかかるのか、分かれば教えていただきたいと思います。

(事務局松村企画課長) 火葬は、市内の方と市外の方で料金が分かれておりまし

	<p>て、市内の方はたしか1万2000円ぐらいで、市外の方は5万円頂くということでございます。せっかくご質問いただきましたので関連する部分でいきますと、予算概要の35ページをご覧くださいませでしょうか。今、戸塚副会長からお話しただいたとおり、確かに火葬は当然、高齢化に向かって多死社会を迎えるわけで、そうすると火葬場のニーズも増えてくるということで、35ページの7番、東部方面斎場整備事業というものを今、鶴見区で進めております。整備火葬炉数16炉ということで、9年3月供用開始を目指して進めているところでございます。それから、ちょっとお時間もありますので簡単に、先ほどの12ページの身寄りのない高齢者支援の情報登録事業のところだけどんな事業かをご紹介しますと、ここに書いてあるとおりなのですが、今回「身寄りのない」というふうにタイトルをつけてしまったので、やや誤解を生むかなと思っはいるのですが、基本的には65歳以上の市民の全ての方が登録いただけるような制度を考えております。特に所得の制限等々も現時点では考えておりません。具体的にいきますと、緊急連絡先ですとか、かかりつけ医ですとか、こちらに記載してありますエンディングノートの保管場所。エンディングノートの内容そのものではなく、エンディングノートを棚の引き出しのあそこの部屋のあそこにしまっであるということが分かるような形で書いていただく。あるいは遺言書についても同様に、遺言書の内容というよりは、それがどこにあるかということを事前に登録しておいていただく。そういったものを幾つか登録項目として考えております。そちらを、横浜市の現在、区役所等で使っております福祉保健システムという共通の業務用の端末システムがあるのですが、そこに新たに一つ項目として載せまして、例えば救急等で病院に運ばれたんだけど、この方、身寄りがあるかないか分からない、緊急連絡先が分からないというときに、病院なり、あるいは警察等から、この方は何かこういう情報登録事業を通して緊急連絡先がありますかと、こちらのほうにお問い合わせいただければ、それをお答えするという、そういうような形を今考えております。</p> <p>(戸塚副会長) よく分かりました。ありがとうございました。</p> <p>(伏見会長) ほかにご発言あるでしょうか。</p> <p>(委員) [意見なし]</p> <p>(戸塚副会長) 事務局からほかに追加はありますでしょうか。</p> <p>(事務局高橋医療政策部長) 本日は活発なご議論いただきありがとうございました。</p> <p>(伏見会長) [閉会のあいさつ]</p>
<p>資 料 ・</p>	<p>1 資料 ・ 資料1 [非公開]令和6年度横浜市保健医療協議会病床整備検討部会につい</p>

特記事項	<p>て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 2 配分済み病床の整備進捗状況について ・資料 3 令和 7 年度医療局予算概要 ・資料 4 令和 7 年度健康福祉局予算概要 ・参考資料 1 横浜市保健医療協議会運営要綱 ・参考資料 2 横浜市の保有する情報の公開に関する条例（一部抜粋）
------	---